

目 次

田上時子のエッセイ 選挙=どんな社会を望むのか	1
特集 今、求められる親学習 スター・ペアレンティング	2
受講生の声 6日間のスター・ペアレンティング講座を受講して	3
活動報告	
メグさんの性の健康教育公開講座/性の健康教育プログラム ファシリテーター養成講座/アンティさんの非暴力アクション・ワークショップ ファシリテーター養成講座/2003年度総会/助成金を獲得した事業	4~5
リレーエッセイ 保村美佐江/石崎和美	6
講座インフォメーション	7
会員の紹介・入会のおさそい	8
編集後記	8

田上時子のエッセイ

選挙 = どんな社会を望むのか

7号から、NPO法人 女性と子どものエンパワメント関西 理事長 田上時子がエッセイを連載しています。いまそこにある問題に対して、NPO法人 女性と子どものエンパワメント関西 は何ができるのか、具体的にその目指すものについて語ります。

11月9日、第43回衆院選は投票が行なわれ、即日開票された。翌日には票を減らした保守新党は自民党に合流することを決定し、結果、自民、公明の与党2党が絶対安定多数を確保した。これを受け、小泉首相の続投が決まった。

今回の衆院選の結果を見て考えた。この不確実な時代にあって、基本的には何も変わらなかった、日本はどこへ行こうとしているのか。

女性と子ども政策の視点から振り返ってみたい。

まずは、衆議院の女性比率が前回の7.3%から7%とまた下がった。小選挙区制は、社会的な地盤を持たない女性には不利であり、社民党の後退にも大きな原因がある。

投票率の低さも気になる。59.86%はあまりにも低過ぎる。「有権者の政治への不信感の深刻さを浮彫りにした」と他人事のようにいうマスメディアが今更ながら空々しい。何を選んで報道したか。何を選んで報道しなかったか。不安を煽るだけではなかったか。

護憲のシンボルである土井たか子氏が小選挙区制で落選し、党首辞任を決めた。平和憲法を変えてはならないと主張した社民、共産党はともに惨敗した。世界が問題解決の手段として戦争を含める中において、日本はどうするのかと問われている。世論は日本が「戦争する国」になってもいいと思っているのか。イラクで

は停戦後すでに150人のアメリカ兵死者を出している。そこへ自衛隊を送るといふ政権が続くことを、日本国民は選んだのか。

毎日のように報道される10代の子どもの事件を見るたびに、問題解決の方法にプロセスも考えもなく、なぜいとも簡単に人を殺せるのかと考えていた。国際間の問題解決に戦争を肯定するおとなと、個人の問題解決に暴力を使う子どもが重なる。おとなの言うことを聞かない時期の子どもも、おとなのすることは見ている。

今回の選挙はマニフェスト選挙とも言われたが、二大政党の到来と言われて争う自民、民主両党ともに女性支援をほとんど取り上げていなかった。この国の子育ては女性がキャリアを捨てることで成り立ってきた。決定的なのは包括的な子育て支援政策の不在である。社会保障給付費の68%は高齢者に使われているが、子ども向けにはたったの3%である。「子どもは金にも票にもならない」と言った政治家もいた。選挙権のない子どもたちに代わって、これからはしっかりと社会的な提言をしていきたいと心を新たにしている。

(2003年11月15日記)

